令和3年第4回(9月)定例会

議長

休憩前に続き、会議を再開いたします。

議長

次に、質問順位3番 5番議員 上田丈二君。

議長

上田丈二君。

上田議員

それでは、通告に基づきまして質問いたします。

本日は、和木町の通学路の安全対策についてと子供たちの安全安心についても少し伺いたいと思います。

平成24年4月に京都府亀岡市で発生しました、登下校の児童の列に自動車が入り込む事故を始め、登下校中の児童等が死傷する事故が連続して発生した事を受けて通学路の緊急合同点検が実施され、子どもの交通事故の発生状況は減少してきたところです。ですが、一方で登下校中の子ども達に車が突っ込む事故は後を絶たない状況でした。

今年6月28日に千葉県八街市において下校中の列にトラックが入り込み、5名が死傷する痛ましい事故が発生いたしました。

文部科学省より通学路における合同点検について、依頼が全国に出されたと聞いております。

現在の和木町でも気になる箇所がありますので伺いたいと思います。

最初の質問になりますが、2018年6月18日に大阪北部地震でブロック塀の倒壊で小学4年生の女の子が死亡した事故により、町内の通学路においても調査が行われました。

結果では、直ちに危険がある箇所はないとの事でしたが、現在での安全状況は調査をされ、安全の確保できているのでしょうか。伺います。

議長

森本教育委員会事務局長。

森本

議員の質問にお答えいたします。

令和3年第4回(9月)定例会

教育委員会
事務局長

議員が言われるとおり、当時ブロック塀の緊急点検を実施いたしましたが、直ちに危険な個所はございませんでした。その後、旧幼稚園の南側出入り口の門扉の強度が弱くなり補強を行ったところでございます。改めて点検というのは、行っておりませんが、補強が必要になれば改善していきたいと考えております。

議 長

上田丈二君。

上 田 議 員

調査はしてないが補強をしなければならぬところがあったら補強をしていくということですね。理解いたしました。

続いての質問に移ります。

和木町内で通学路の中で最も危険性が高いのは、関ヶ浜からの通学路なのではないかと思えます。

実際に、議長と共に朝の通学時に、子どもたちと小学校まで3度ほどですが歩いてみました。

関ヶ浜分館から通学時に歩いたのですが、県道までの道も狭くガーレールや縁石もありませんので、交通量は少なく30キロ制限区間ではありますが、車が通るたびに危険が伴います。

さらに県道に出ると道幅は多少広くなりますが、岩国に抜ける関々トンネルが出来てから車の交通量が以前と比べて多くなっており、トラックの通る台数も増えています。

さらに、通学路になっている県道の区間は、速度制限がされていない区間になっております。車のスピードが上がっているうえに途中で道幅が狭くなりカーブもあり、私自身車で運転していてもトラックと交差する時に危険を感じる場所があります。

子どもたちの安全を考えると対策が必要なのではないかと思っております。

質問ですが、車で運転をしていても危険と感じる場所があり、スピード制限がされていない事を考えると、注意を呼び掛ける看板、「通学路学童に注意」の看板ですが、こういった看

令和3年第4回(9月)定例会

板の設置は、制限区間の終わる場所、あけぼの橋のところから瀬田八幡宮の下にかけて設置し、車のスピードが上がる前半部分にもう少し多くあるほうが望ましいのではないのでしょうか。

それが1つ目なんですけど、2つ目には車両の危険性については、トラックなどが飛び込んで来た場合に、縁石だけでは危険の回避が出来ないと考えます。

県道ですので、車両用防護柵の設置を県に要請はできないのでしょうか。

そして3つ目になりますが、通学の方法についてですが、以前よりスクールバスの検討の呼びかけが出されていると聞いています。実際に歩いてみて、保護者の方もできるならスクールバスがあった方がいいとおっしゃっておいりました。

学校と保護者の方達との話し合いが必要なのではないかと考えますが、以上3つについての安全対策についての考えを伺います。

議長 森本教育委員会事務局長。

森本教育委員会事務局長 関ヶ浜からの小瀬川沿いの小学生の通学路については、山側の歩道を登下校をしております。関ヶバイパスが完成し、朝夕の交通量も増加している状況で道路改良も進行中でございます。途中、道路幅が狭い個所があり車の走行に危険なところがある状況であるということは認識をしておるところでございます。

歩道と車道との間に縁石が設置され、はっきり区別されている状態ではございますが、道幅も狭いところがありますので防護柵や看板については、都市建設課と協議しながら県土木に要望していきたいと考えております。

なお、小学生の徒歩通学については、概ね4km以内が基準と定められておりますのでスクールバスや公共交通の利用については、現在のところ考えておりませんのでご理解をいただきたいと思っております。

議長 上田丈二君。

上田議員 看板についてもお尋ねしたんですけれども、看板が現在、途中に3つほど設置されている訳なんですけれども、1つは大きい、先程言いました「通学路学童に注意」と大きい看板があるんです。でもう1つは「通学路」でもう1つは標識に小さく表示がされているのがついているんですけれども、このスピード制限がされていない終わりの部分に看板がついているんですね、どちらかといえばスピード制限がかかっていない場所から学童に通学路に注意を、注意喚起を呼びかける看板が設置した方が僕はより安全に車を運転してる方に注意喚起を呼びかけられるのではないかと思うんですね。

それともう1つの通学の方法なんですけども、確かに4キロ以内というのものもあるかもしれませんが。ですが今現在でもつつじヶ丘の方では帰りの時に公共交通を利用した、あいあいバスを利用した登下校を行っていると聞いております。スクールバスではなくても公共交通を利用したあいあいバス、これを利用した登下校というものはできないのでしょうか。

議長 森本教育委員会事務局長。

森本教育委員会事務局長 あいあいバスを利用した公共交通についてはですね、蜂ヶ峯の自治会が、当初団地を売り出す時に条件として売り出したので、今のところ考えはないということでございます。

議長 上田丈二君。

上田議員 ちょっと質問の主旨と違った答えだったので。確かにですね、蜂ヶ峯公園の中の団地は、そういうふう聞いておりますよね、ですが、その下のつつじヶ丘も今帰りの時には公共交通を利用しているというふう聞いてはいるんですけど、そういった形でですね、学校で保護者の方たちと協議をして、そういう

令和3年第4回(9月)定例会

ことを行えば、学校の通学路の通行方法については変えていくこともできると思うんですが。

議長 どうしますか。重岡教育長。

重岡教育長 今のご質問にちょっとお答えをさせていただこうと思います。

概ね4km以内、それからちょっと改定をされまして、概ね1時間を超えるところについては、スクールバスとか公共交通利用ということが出ております。この辺あたりはまた変わる可能性が今あるかなというふうに期待もしているところなんですけれども、蜂ヶ峯もつつじヶ丘も標高で言いますと100メートルを超えておりまして、先程のご質問はつつじヶ丘だった訳ですけども、来るときは徒歩で来ます。帰りはやっぱり概ね1時間というところにも引っ掛かりますので、バスを利用して帰るということが1点。

それからもう蜂ヶ峯は120、30メートルの標高になっておりますので、かなりのもう時間が登下校、特に下校、これを徒歩で帰りなさいということになりますと、体力的にも大変なことになるかなというふうに思います。

スクールバスとか公共交通利用の条件としましてはですね、どこからかバスを使って学校に行く途中にいる子どもについては乗せる事ができるというのも実は別条件にございまして、これにもつつじヶ丘は該当します。蜂ヶ峯に帰る途中まではつつじヶ丘の子どもたちは乗せる事が可能ですよということにも該当しますので、もう特別な環境っていいですか、ちょっと高い位置に住居地があるということから、この2つについては一応の規定の範囲内ということで認めることができるかなというふうに考えておるところでございまして。お答えになったでしょうか。

議長 上田丈二君。

令和3年第4回(9月)定例会

上田議員

特別な条件等があつて、つつじヶ丘、瀬田地区では帰りの登下校をあいあいバスで利用しているって事で、関ヶ浜はそれにあたらないということなんですかね、ですが、交通のその途中の過程ではなくてですね、危険性も考えればですね、保護者の方たちの意見も、ぜひ聞いて、伺っていただければと思っております。

続いての質問に移ります。

続いての質問になりますが、この他で、危険と思われる場所は、郵便局前の交差点ではないかと考えています。

点滅信号はついていますがけれども、見通しが悪く、事故は度々起こっている場所で、通学路にもなっております。

以前にも同僚議員より信号機の設置についての要望がありましたが、道路の状況で設置が難しいとの事でした。

この交差点の内側に道路面の標示をすることはできないでしょうか。つつじヶ丘団地内の交差点のようなオレンジ色に交差点内に危険標示をすると注意喚起に効果があると思うのですが、お尋ねいたします。

議長

森本教育委員会事務局長。

森本教育委員会事務局長

お答えいたします。

7月28日に岩国警察署、県土木、小中学校、PTA、庁舎内の関係課で構成する和木町通学路安全推進会議を行いました。

この推進会議は、平成24年4月から5月にかけて全国で立て続けに登校中に事故が発生したことを受けて、登下校時における安全確保等防犯対策の推進を図ることを目的として行われるものでございます。その推進会議の中で、郵便局前の交差点について協議を行ったところです。その結果、現在、公安委員会に横断歩道の再塗装、県土木への交差点への改良について現在協議を行っているところでございます。

議長

上田丈二君。

令和3年第4回(9月)定例会

- 上田議員 再塗装はされるということなんですけれども、僕、先程質問したのは、歩道内の道路標示ですよ、道路内の表示、あの中をオレンジ色に塗ってこうもっと注意喚起が行われることができるようにはならないのかっていう質問だったんですが。
- 議長 森本事務局長。
- 森本教育委員会事務局長 それもあわせて今県土木と協議を行っているところでございます。
- 議長 上田丈二君。
- 上田議員 理解いたしました。
今回、通学路の合同点検はされたのでしょうか。危険と考えられる場所は、他にもあると思うのですが教えて頂きたいと思っております。
- 議長 森本事務局長。
- 森本教育委員会事務局長 和木町通学路安全推進会議を行う中で協議した個所については、今年度は、3か所協議を行いました。前の質問にもありました和木郵便局交差点、郵便局前からセブンイレブン前の県道、郵便局前の中道を国道に向けて行ったJR架橋下国道側の変形交差点の3個所です。この会議では毎年、2、3か所の危険な場所を検討してきていますが、これまで県土木、警察署、町の協力により改善をしているところでございます。
- 議長 上田丈二君。
- 上田議員 3ヶ所ほどあるということは理解いたしました。
私がこの他にも感じた場所があるんですけれども、関ヶ浜地

令和3年第4回(9月)定例会

区と同じようにこの瀬田地区も道幅が狭くなっておりまして、30キロ制限になっておりますけれども、この30キロ制限の始まりの標識が分かりにくく、どこから30キロ制限に入っているのか少し分かりにくくなっていると思うんですけれども。

そして、道路面の「スピード落とせ」の道路標示も消えています。また、町内の道路面の標示、特に横断歩道や「この先歩道あり」の標示が消えかかっている場所が本当に多いと感じました。

質問になりますけれども、道路面の標示はどのような状況になったら改善をされるのでしょうか、伺います。

議 長 森本事務局長。

森 本 道路面の表示ですが、横断歩道については公安委員会、県道教育委員会 については県、町道については町が再塗装をいたします。塗り事務局長 替えの基準はなく、要望を出してからということになります。

今年度は公安委員会が実施した横断歩道の再塗装については、現在では町内3か所で実施をしております

議 長 上田丈二君。

上 田 議 員 今、調査をされ要望を出している途中だということなので理解いたしました。安全、安心を求めれば、本当にきりがいいのかのかもしれないかもしれません。

和木町は、他の市町と比べれば、安全、安心対策は尽くしている方で、安全で暮らしやすい町と思っております。ですが、なお一層こどもの命を守るため、そして安全、安心を得るためには、ぜひ、今申した事も検討をして頂きたいと思っております。

一度に行うのは難しいとは思っております。県にお願いする事、町で行なえる事、通学路の通学の方法は、学校で保護者の方々と話す必要があると思っております。ですが、町や教育委員会が動かなければ、前に進む事はより難しいと思っていま

令和3年第4回(9月)定例会

す。ぜひ、改善できる事項については、検討をして頂きたいと思いをします。

続いての質問に移ります。

和木町では他の市町以上に子育て支援に力を入れております。子どもたちの安全、安心については、交通の事故だけではなく様々な事態に対処が要求される問題だと思っています。

特にコロナウイルス感染拡大の下では、さらに、子供たちの命を守る安全、安心については考える事が多くなっています。

現在、子供たちを守る安全、安心について、町長、教育長はどのような事が必要とされているか伺いたしたいと思います。

議 長

重岡教育長。

重岡教育長

では、私の方からお答えをさせていただきます。

6月28日、千葉県八街市において下校途中の児童5名が事故に遭われ、この事故によりお亡くなりになった2名の児童のご冥福を心よりお祈りいたします。また、負傷された児童の方々の一日も早い快復を願っております。改めてご家族の皆様にご心からお見舞いを申し上げます。

さて、今回このような事故が起きたことを受け、通学路における交通安全を一層確実に確保することが重要であることから、文部科学省、国土交通省及び警察庁の3省庁から「通学路における合同点検の実施について」の通知がございました。

和木町における通学路等の安全点検は、毎年夏季休業中に和木町通学路安全推進会議を開催し、交通安全対策と防犯対策について協議・検討を行っております。

本年度は、7月28日に開催いたしました。会議に参加された委員の皆様も今回の事故と合同点検実施の通知文の内容を重く受け止めておられました。これまでの議会において、バス通学のご質問も何度かいただきました。通学路の安全確保において、バスの利用は有効な方策ではありますが、通学距離等との関係から現時点では困難でございます。バス通学は、主として

令和3年第4回(9月)定例会

「へき地における通学支援」や「学校の統廃合における遠距離通学」が必要となった場合などと決められており、スクールバスには国庫補助がございます。本町には、いわゆる「へき地」もありませんし、「学校の統廃合」もございません。

この度の事故を受け、スクールバスや公共バス利用の補助や助成、バス通学の要件緩和などが検討されるとも聞いておりますので、国の今後の動向も注視したいと考えております。

また、車道と歩道の明確化のため、境界ブロック上にポストコーンの設置やガードレール・ガードパイプの設置、路肩のカラー塗装などの安全対策を関係部署からも強く要望していただくようお願いしたいと思っております。

併せて、学校では、児童生徒に対するKYT、危険予測トレーニングでございますが、このKYTの徹底が図られることも重要となります。さらに、地域の見守りの目も大切になってきます。学校・家庭における安全教育・防犯教育、危険回避について指導していただくとともに、地域で子どもを育て、地域が子どもを守るという風土作りも大変重要であると考えております。こうした取組や政策はここまでやれば安全が確保されるというものではなく、不断の点検、継続的かつ重層的な取り組みが不可欠であると考えております。子どもたちの安全についても、今後も、学校安全3領域、3領域と申しますのは、防犯を含む生活安全、交通安全、災害安全の3つでございますが、この取組を重視して、総合的かつ効果的に推進し、学校の危機管理対応能力の強化と子どもたちの安全に関する資質能力の向上を図ってまいりたいと思っております。

なお、今年22日、小学校が「交通安全優良校表彰」を受賞することとなりました。これまでの交通安全活動が評価されたものと思います。今後も、交通安全活動も含め、学校安全教育のより一層の充実に向けた取組を進めてまいりたいと思います。

議 長 米本町長。

米本町長

上田議員のご質問にお答えをいたします。

子どもたちの安全、大変重要な事だと思います。私も八街市の事故、これは私はもう犯罪だと思っておりますけども、事故や日本各地で報告される事件、事故での子どもたちの犠牲に関しましては、大変心を痛めている一人でございます。

また、私自身も子どもさんのみならず、町民の全ての方が安心して安全に生活していただくことが一番であるというふうに考えているところでございます。

しかしながら、皆さんが言われる事全てに対して対応が出来ていないというジレンマもございます。事実、八街市の市長さんも決して何もされてなかった訳ではなく、同時期に提出をされておりました要望により近くの交差点の拡幅をされていたということでございまして、市長さん自身も大変悔やまれるというふうにおっしゃっておられました。

和木町では、約13年間死亡事故ゼロという記録を持っておりますが、議員の皆さまから「事故があつてからでは遅い。」というふうにお叱りを受けるかもしれませんが、地方自治体は自ずと限界があり、行政所掌も違うことなどから、全てについて優先順位を決めて取り組む事が必要となってくることをご理解いただければというふうに思っております。

もちろん、緊急を要することは、すぐに取り組んでいきたいというふうに思っております。

また、先程述べられましたコロナ禍における子どもたちの安全確保についてでございますけども、町といたしましては出来る事というのはそんなに沢山ございません。皆さんに3密の回避や手洗いの励行など基本を守っていただいて、各種の制限がある中ではございますが、町の役割としては、クラスターの発生というものを出来る限り防いでいくことしかないというふうに思っております。

加えてワクチン接種もそうでしょうが感染された子どもたちへの誹謗中傷、差別の防止に努めていく必要があるものというふうに認識をしております。

令和3年第4回(9月)定例会

事件、事故はほんの少しの油断によって起こることが多く、町内でもまだまだ子どもたちにとって危険なところも沢山あり、しっかりと注意喚起をしていただき、学校においても安全教育も徹底していただくなど、保護者、学校、自治体がそれぞれ協力して安全を図っていきたいというふうに考えております。なお、先程、森本課長の方から、平成24年4月から5月にかけて事故が多くあったことを受けてというふうに報告をさせていただきましたけど、これは和木町のことでございますので安心をしていただければというふうに思います。

議長 上田丈二君。

上田議員 町長、教育長のお二人とも、子どもたちは町の財産であり守らなければならないこととして取り組んでいく最重要課題と考えておられることがよくわかりました。

今後も、子どもたちの命、安全、安心に取り組んでいただけたらと思っております。

できればですね、先ほど私が言った中に町で最初に出来る事があると思うんです。それが子どもたち、車に対する注意喚起の「通学路学童に注意」この看板をですね、もう少し多く設置していただければと思っております。

他に挙げていただいた問題点、防災、交通、災害、そして地域で育てること、こういった問題については今後も考察して取り上げてまいりたいと思っております。

以上で、私の質問を終わります。

議長 再質問はございませんか。

議長 再質問がないようですので、以上で、上田丈二君の一般質問を終わります